

## はじめに

日本では、少子高齢化や疾病構造の変化、療養の場の多様化が顕著になり、今まで以上に地域での医療・看護のニーズが高まり、療養の場に応じたさまざまな技術が必要とされてきています。

このような背景を受けて、2022（令和4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正では、対象となる人の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力を高める方策の一つとして、ICTを活用するための基礎的能力やコミュニケーション能力の強化、総単位数を97単位から102単位とし各養成所の裁量で領域ごとの実習単位数を一定程度自由に設定できるなど、地域・在宅看護論に係るカリキュラムの変更がなされました。

また、2024（令和6）年の診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬等のトリプル改定でも、「医療・介護・福祉の連携強化」や「医療・介護におけるDX化の推進」等が改定のポイントとされ、今後ますます「在宅療養を支える技術」を充実させるニーズが高まっていくといえます。

そこで、第3版では、採用校の先生方のご意見を取り入れながら、これまで以上に次の点を充実させました。

1. 地域・在宅領域の最先端の活動を知る専門性の高い執筆者の解説
2. ICTやDX等も含めた地域・在宅で用いられている技術の具体例
3. 実践が「見てわかる」写真・イラストのさらなる充実
4. 最先端の技術を何度も自学自習の中で見直せる動画
5. 段階的に積み上げ可能であるとともに部分的に利活用も可能な演習方法
6. 演習に利活用可能な多様な事例と各事例の応じた演習問題

本書とともに、姉妹巻である『地域・在宅看護論①：地域療養を支えるケア』、ナーシング・グラフィカシリーズ他巻の関連領域へのリンクもご活用ください。

地域・在宅看護を取り巻く環境や必要とされる技術は、社会と連動しながら年々変化していくことと思います。地域・在宅看護論を学ぶ皆さんが、変化に柔軟に対応し、多様な看護の場で実践能力を発揮できる看護職となられるよう、本書がその学習の一助となれば幸いです。

編者一同